

なくしていいもの なくしてはいけなないもの

個人も企業も、コストパフォーマンス（コストパフォーマンス）やタイムパフォーマンスを重要視し、短時間で効果を出せるもの、安くて良いものを探すことに必死になっているように見えます。デジタル化においては、このような時代だからこそ、なくしていいもの、なくしてはいけなないものがあるのではないのでしょうか。今回は、デジタル化における弊社の取り組みを例にお伝えします。

経 営者としては、デジタル化によるコスト削減の推進はとても大切なことです。ただし、ふと立ち止まることも必要です。毎月発行しているSNPは元々、紙媒体のみでしたが、約5年前からデジタル版との併用にしました。スマホでいつでも読めるということで、メンバーさんからは感謝の声をいただきました。また、発行部数が減ったことで年間数百万円のコスト削減にもなりました。しかし、私や社員の関係者などに送っていた分まではデジタル化しませんでした。デジタル版を読みにくいという方もいると思ったことと、手元に冊子が届いた方が弊社との繋がりを感じていただけたらと思ったからです。

年 に一度、弊社ではアイデア会議を実施しています。10人1組の班をランダムに作り、1人2個までアイデアを持ち寄り、私にプレゼンをします。採用となったアイデアを実現すれば、会社からインセンティブがもらえるということもあり、社員も一生懸命アイデアを出してきます。そ

の中で、先日「給料明細の電子化」というアイデアが出ました。紙の給料明細を作るには、紙を印刷し、封筒に入れて封をするという工程を百数十名分することになるので、かなりの手間がかかります。また、それを各事業責任者に渡し、その事業責任者から各管理職に渡し、管理職から社員に手渡ししています。それらを効率化するアイデアで、当然私も数年前から気になっていた部分でもあるのですが、瞬時にいろいろなことが頭をよぎり「否決」としました。否決にした理由は、電子化をすると紙の給料明細を手渡しするという文化がなくなるからです。私は実際に渡す場にいたことは無いのですが、社員が働いてくれていることへの感謝を伝えたい「渡す側」と、頑張った成果をいただけたい感謝を伝えたい「受け取る側」の、月に一度の大事なコミュニケーションの場になっていると想像しました。気がついたら給料日に口座残高が増えているだけの無味無臭で感情も何もない、もたらす当たり前という会社の空気は私の求める社風ではありません。私はそ

れを恐れて否決にしたのです。

各社員に聞いてみたところ、やはり給料日に管理職から一人ひとりに「今月もご苦労様」という言葉がけがあり、さらに「こういうところを頑張ったね」という言葉添えをしていることもあるそうです。そして、社員の皆さんは、「両手で受け取って」「ありがとうございます」と言っているのです。目まぐるしく流れる毎日の中でも、一旦立ち止まってこのようなやりとりをするこ

とで、じわじわと感謝の気持ち芽生えてくるのではないかと思います。弊社においては、まさになくしてはいけなないことの一つなのです。このことに割くコストは必要経費です。デジタル化してコストが安くなっても、大切な何かを無くしては意味がありません。何でもデジタル化してコストを求めめるのではなく、少し深呼吸をして、数年後どうなるかを想像してから実行しても、遅くはないのではないのでしょうか。デジタル化が進む今だからこそ、なくすべきものとなくしてはいけなないものを、自分の頭で考える必要があるのです。



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつろータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「『応援される人』になりなさい」(ワック)がある。